

鳥井おさむ 後援会だより

vol. 21

2015年1月1日発行

【発行責任者】

高階 勇樹

【事務所】

秋田市中通2-1-11

Tel/Fax.018-833-8864

討議資料

2015 あけましておめでとうございます

あ
し
た
未
来
を
つ
く
る

秋
田
を
つ
く
る



新 年 の あ い さ つ



皆様、あけましておめでとうございます。秋田市議会議員の鳥井おさむです。

ご家族で輝かしい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より私の政治活動および後援会活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。また、たくさんの皆様、地域の方々に支えていただき、心より御礼申し上げます。

さて、去年は広島県の土石流災害や御嶽山の噴火など、またしても圧倒的な自然の力を見せつけられました。一方、第29回国民文化祭の本県での開催や、2月に行われたソチオリンピック男子フィギュアスケートでは、日本に初の金メダルがもたらされるなど明るい話題も多かった年ではなかったでしょうか。

今年は、私にとっても新たな挑戦の年であります。

平成27年も皆さまにとりまして輝かしい一年となりますよう心から祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

秋田市議会議員 鳥井 おさむ

鳥井おさむの想い

秋田市議会議員の鳥井修です。

現在私は、秋田市議会議員として、3期12年目を勤めさせていただいております。

この間、秋田市議として感じたことは、秋田県の抱える問題は山積しており、秋田市だけでは解決できない課題が多いということです。

これらの課題を克服するためには、各市町村と連携し取り組まなければならないと考え、来春実施される**秋田県議会議員選挙**に挑戦することとしました。

その中で、私が一番重要であると考えるのが、秋田県が全国で最も進んでいる『**少子高齢化問題**』であります。

若者の県外流出と少子化により、秋田県では年々、総人口の中での高齢者の割合が高くなっており、現在では30%以上が高齢者となっております。

若い世代の流出は、子どもを授かり育てる世代が減少し、少子化・高齢化を加速させる要因となります。

まずは、若者の人口流出を食い止めなければなりません。

秋田県に住む定住人口の拡大のためには、若者の働く場の確保が必要であります。

秋田県では現在、約60%の人が、商業・サービス業に従事しています。今後、求められるサービス内容を見極め、成長が見込まれるサービス業の振興に取り組みます。

観光においては、例えばペット同伴可能なホテルを増やすなど、観光客のニーズに合ったサービスの提供により、リピーターや、口コミでの新規観光客の呼び込みによる交流人口の拡大を図るほか、地域ブランドの創出など、県産品を活用したビジネス展開による観光関連産業の雇用の拡大につなげることができるのではないかと考えております。

スポーツの振興においては、県民が健康づくりとしてのスポーツを、誰でも気軽に参加できるような、施設を含めた体制づくりと、地域のスポーツクラブの育成・支援。そして、地域の活性化にもつながる大規模スポーツイベントの開催による交流人口の拡大に取り組むと考えております。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、秋田からトップアスリートを出出するため、各団体と連携し、選手の育成を支援するとともに、参加する各国の合宿地としての誘致推進に取り組みます。

少子化対策については、若者の雇用の確保とともに実施しなければならない政策であると考えております。

現在、秋田県の子育て家庭に対する福祉医療費および保育料の負担に対する支援は全国でもトップクラスであります。しかし、県人口の出生数は減少を続けております。

平成22年の県のアンケート調査では、「**経済的負担**」の増が出生率の低下の理由として、そして、子育ての悩みや不安についても「**経済的負担**」が多く挙げられており、子育て支援の対象となる年齢幅の拡大など、更なる経済的支援が必要であると考えております。

また、経済的支援の他にも、県民が安心して出産できる医療体制・環境の整備。親が子育ての悩みを1人で抱え込まず気軽に相談できる環境の整備。更なる学力向上と、「社会を支える自覚と高い志」と「ふるさとを愛する心」を育てる教育環境の整備に取り組みます。

私は、より良い秋田の未来をつくっていくために尽力いたしますので、皆様からのご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

鳥井おさむです。私は3期目の当選後、市議会に新風を吹き込むべく、新会派『希望』を結成しました。現在、『希望』は5名の議員で構成されており秋田市議会では第二会派となります。会派では、最年少ながら会長を務めており、毎年2月の定例議会の代表質問をさせていただいております。以下に3期目の主な質問と市からの回答を紹介します。



問 自家用車がなければ不便を強いられるまちを解消するために、高齢社会に対応した公共交通機関のあり方について検討すべきではないか。

答 超高齢社会を迎え、マイカーを利用できない高齢者や児童生徒など、いわゆる交通弱者にとって、公共交通は日常生活に不可欠な移動手段であることから、交通事業者と行政の役割分担を定め、さまざまな政策を進めていくこととしている。また、昨年(平成23年)10月からは、高齢者に配慮した公共交通施策として、100円ですべての路線に乗車できるコインバス事業を実施しており、今後とも、高齢社会を踏まえた、マイカーに依存しない公共交通の構築に努めていく。

問 御所野地区の現状を踏まえ、利用目的の異なる公共施設を複合化し、コミュニティ機能も有した児童センターを整備することを検討すべきではないか。

答 御所野児童室は、平成16年度から暫定的に秋田テルサ内に設置したところでありますが、現在、利用児童数が1日平均約50人となっており、狭隘化しているものと認識している。今後は、利用児童数に応じた施設の整備が必要であると考えており、その整備に当たっては、以前よりコミュニティ機能を有した施設の設置についての地域要望もあることから、複合化を前提に検討していく。



建設中の御所野児童センター

この質問は、平成24年度初めの質問でした。
御所野児童センターは現在建設中で、平成27年5月に完成予定である。

問 エネルギー政策について、原子力規制委員会が安全と確認した原子力発電所の再稼働に対する市長の見解について伺いたい。

答 エネルギー自給率が極端に低い我が国において、現状の原発停止と火力発電への高い依存は、燃料費の輸入増大による電気料金の値上げ、貿易赤字の拡大などをもたらしており、その結果、国民負担の増加や国際競争力の悪化、エネルギー安全保障の脆弱化、地球温暖化対策の後退など、深刻な影響が懸念される。

このような我が国が置かれている厳しい現状を考慮すると、当面は、新たな基準に基づき安全性が確認された原発については順次稼働させ、中長期的には、段階的に再生可能エネルギーへの転換を図っていくべきである。



問 津波浸水マップより最悪の被害を想定した場合、南部地域の防災機能について、地域備蓄拠点に浸水エリア外の高台に設置するなど、リスク分散を図るべきではないか。

答 本市では、市民サービスセンターや学校など、主に12カ所の施設に分散して物資を備蓄しており、災害の規模や避難所の開設状況に応じて、全市的な供給体制をとることとしております。

南部地域においては2カ所に備蓄しておりますが、いずれも河川の浸水想定区域となつており、リスク分散のため、今後、高台等にある他の公共施設への備蓄についても検討する。



鳥井おさむ3期目の記録



鹿兒島市の子育て交流館視察



スポーツ議員連盟要望書提出



定例議会 鳥井代表質問



第85回メーデー



第2回与次郎駅伝ランナー



少年指導委員会活動



議会代表質問



東北電力中央給電指令所視察

鳥井おさむのあゆみ

昭和42年10月6日——東京都府中市生まれ
 妻一晴弥・長女一杏弥の3人家族
 父親一五城目町出身・母親一東京都出身
 祖父一鳥井森鈴(秋田追分の生みの親)
 昭和61年 3月——国学院大学久我山高校卒業
 平成 2年 3月——日本体育大学体育学部体育学科卒業
 平成 2年 4月——東北電力秋田支店営業広報部入社
 東北電力ラグビー部入部

平成 3年～6年——東北電力ラグビー部主将
 平成 2年～11年——全秋田ラグビーチーム選出
 平成 8年 8月——秋田市御所野に居をかまえる
 平成15年 4月——**秋田市議会議員初当選**
 平成17年 7月——教育産業委員会副委員長
 平成19年 4月——**秋田市議会議員2期目当選**
 市民クラブ幹事長
 平成19年 6月——教育産業委員会委員長

平成21年 6月——総務委員会・市民クラブ幹事長(再任)
 平成22年10月——決算特別委員会委員長
 平成23年 4月——**秋田市議会議員3期目当選**
 会派「希望」会長
 平成25年 6月——秋田市監査委員

その他役職

- 連合秋田議員懇談会事務局長
- 秋田県ラグビーフットボール協会理事
- 秋田ノーザンブレッツラグビーフットボールクラブ理事
- 秋田市議会スポーツ促進議員連盟幹事長
- 秋田市御所野地区体育協会副会長
- 秋田市少年指導センター南部地区少年指導委員会会長
- 秋田市立御所野学院中学校教育振興会会長
- 元秋田市立御所野学院高等学校PTA会長
- 元秋田市立御所野学院中学校PTA会長
- 元秋田市立御所野学院中学校PTA副会長

後援会員募集

後援会に入会希望の方は、
お電話・メールでお申込み
ください。

ホームページ開設
<http://torii-osamu.com>



とりい 鳥井おさむ 後援会事務所

〒010-8588 秋田市中通二丁目1-11
 Tel/Fax.018-833-8864 E-mail.torii@cna.ne.jp
 鳥井おさむ自宅/〒010-1413 秋田市御所野地蔵田二丁目8-5 Tel/Fax.018-826-0403